

研究分野	漁場環境	部名	漁場環境部
課題名	大型クラゲ出現調査及び情報提供事業（出現状況調査、ブイによる水温観測調査）		
予算区分	委託（（社）漁業情報サービスセンター）		
試験研究実施年度・研究期間	平成18年		
担当	松尾 みどり・菊谷 尚久		
協力・分担関係	青森県水産振興課・（社）漁業情報サービスセンター		

〈目的〉

本調査は平成17～18年度「大型クラゲ被害防止緊急総合対策事業」の一環として、実施された。大型クラゲの出現状況を調査船による洋上調査、漁船や市場での聞き取り調査等により迅速に把握し、大型クラゲの分布に関する情報を広く漁業者等に配信する。

〈試験研究方法〉

1. 洋上調査

試験船により、海洋観測時や沿岸資源調査時に目視調査を実施した。調査項目は出現の有無、個体数、傘径、表層水温等で、結果は漁業情報サービスセンターへ報告した。

2. 聞き取り調査

県内の漁協からの出現情報を水産振興課を通じて入手し、漁業情報サービスセンターへ報告した。

3. 水温ブイによる水温観測調査

深浦町大戸瀬漁協前沖に水温ブイを設置し、連続観測を実施した。収集されたデータは、電子メールにより漁業情報サービスセンターほか関係者へ配信された。

〈結果の概要・要約〉

1. 洋上調査

試験船東奥丸及び青鵬丸により、本県日本海側沿岸から沖合域において調査を実施した。調査は18年10月～19年1月に計11回実施された。

2. 聞き取り調査

青森県には9月中旬より来遊し、それ以降、5日毎に情報収集及び情報提供を実施した。1月に入るとほとんど出現しなくなり、1月末をもって調査を終了した。

3. 水温ブイによる水温観測調査

平成18年8月1日に、水温観測ブイを深浦町大戸瀬漁協沖水深30m地点に設置し、観測を開始した。8月18日頃から10m層及び20m層のデータの一部に異常が認められたため、9月14日に代替機との交換を実施した。その後異常はなく、平成19年2月17日に調査を終了し、同18日に回収した。

〈主要成果の具体的なデータ〉

1. 洋上調査

東奥丸による沿岸から沖合域の観測時には、大型クラゲは目視されなかった。青鵬丸による沿岸域の調査では、1～80 個体が目視されるか底曳網に入網した（表 1）。

表-1 試験船による調査結果

月日	試験船名	海域	水深	表面水温	個体数	傘径	調査方法
10月5日	青鵬丸	十三沖	300m	21.9	1	60cm	目視
10月5日	青鵬丸	十三沖	280m	20.9	1	1m	底曳網に入網
10月30～31日	東奥丸	日本海観測	—	14.2～19.4	0	—	目視
11月10日	青鵬丸	十三沖	300m	18.7	7	40～1m	底曳網に入網
11月10日	青鵬丸	十三沖	250m	18.7	3	40～1m	底曳網に入網
11月17日	青鵬丸	出来島沖	250m	17.8	30～35	50～1m	底曳網に入網
11月17日	青鵬丸	出来島沖	300m	17.6	70～80	50～1m	底曳網に入網
11月21日	青鵬丸	十三沖	100m	16.9	30	50～1m	底曳網に入網
11月21日	青鵬丸	高山沖	100m	17.1	3	50～1m	底曳網に入網
12月6～7日	東奥丸	日本海観測	—	9.4～15.0	0	—	目視
1月5日	東奥丸	日本海観測	—	12.6～13.4	0	—	目視

2. 聞き取り調査

青森県では、9月15日及び16日に今年度初めて出現が確認された。全海域において、大量出現は11月に集中した。日本海側では、11月上旬から断続的に大量入網があった。津軽海峡側では、10月末にピークとなり、その後11月中旬に再び増加した。太平洋側では、11月上旬以降増加し始め、11月下旬にピークとなった。陸奥湾内では、10月末から断続的に大量入網があり、11月末にピークとなった。出現個体の傘径は、100cm前後が多かった。

3. 水温ブイによる水温観測調査

8月の観測開始当初は1m層23℃台、10m及び20m層22℃台であった。水温のピークは1m層及び10m層において8月下旬にありそれぞれ27.5℃、26.6℃であった、20m層では9月上旬にあり、25.1℃であった。その後は降温が続いた。

〈今後の問題点〉

漁協からの聞き取りデータにおける出現個体数は報告者の目測によるもので、感覚に頼っている部分が多い。そのため、大量出現した際には過大評価している可能性も有り、実際のデータにより近くなるような調査方法の検討が必要である。

〈次年度の具体的計画〉

平成19年度から「大型クラゲ等有害生物被害防止総合対策事業」が実施され、その一環として今年度と同様の調査の実施が予定されている。

〈結果の発表・活用状況等〉

出現調査結果及び水温観測結果は、ウオダス No.1502～No.1538 に掲載された。また、漁業情報サービスセンターへ報告された情報は、同センターで「大型クラゲ出現情報」として取りまとめられたほか、東北海域の出現予測情報や水温の短期変動の把握における基礎データとして活用された。